

ご復活の一週間は、雨が降ったり止んだりの気まぐれな天気でした。それでも復活の主日やコロッセオでの十字架の道行きなど、肝心な時には太陽が顔をのぞかせ、新しい教皇様を祝福しているようでした。

スーツケースの簡単な荷物も片付け終わり、わたしは再びローマの共同体での生活をはじめ



ました。ローマの強い日差しと埃っぽい空気、高くそびえる豊かな木々、様々な教会の鐘の音、なつかしい仲間に出迎えられ、ふっと四年前に戻ったような気持ちになりました。それでも同時に、自分が四年前の自分ではないことも感じていました。

この四年の間にわたしは誓願を立て、勉学の期間をいただき、そして学校で使徒職に就くという経験を経ました。このように改めて振り返ってみると、時々の平凡な日常の積み重ねが、今のわたしを形作っています。つまり、過去の様々な体験や経験、歩いてきた道があるからこそ、わたしは自分の目前にこれからも示される新しい道を信じることができます。

教会もまた、いま新しい時代を刻みつつあります。教皇フランシスコの選出は、多くの人々にその期待と予感を感じさせているようです。同時にその新しい時代は、パパ・ベネディクトが示してくださった道とつながっています。教会の中でみられる伝統と創造は、元来決して対立しあうものではありません。伝統と創造は互いに背中合わせになりながら、伝統は知恵に満ちた経験を指し示し、創造は今の時代に適応した新しい道を拓いてゆきます。どちらを失っても、わたしたちは正しく生きることができないでしょう。

わたしがそのことを学んだのは、聖書において示される民の姿によってです。イスラエルの民は自分たちの原点を絶えず思い起こし、過去を見ながら新しい道を荒野に拓いてゆきます。聖書を開くと、いつの時代も困難と脅威にさらされながら、弱い一握りの民が旅してゆく姿が見えます。それでもその弱い民は、恐るべき神の民でもあるのです。わたしもその一員として、この新しい時代にローマにいられることを感謝しながら、歩んでゆきたいと思っています。